

ぜん 全

しん 進

全員で 進もう!



確かな学び通信
2026.7.8

生活・社会小研 1-3生活科「みずで あそぼう」

昨日は生活・社会科の小研でした。1年生の生活科ということで、体験や遊びを通して気づいたことや考えたことを学びにつなげていく活動でした。生活・社会科の教科会では、「問いを持ち、根拠をもとに考えを伝え合い、自分の考えを深める」姿をめざし実践を進めています。授業での子どもたちの姿を中心に、小研での学びをみなさんと共有したいと思います。



☆活動をつなげるふりかえり

授業の導入では、前時の子どもたちのふりかえりをもとにめあてにせまっていきました。「前は〇〇だったから今日はもっとすごいおもちゃにしよう」と**子どもたちの活動への意識が高まる**取り組みでした。写真**をたくさん提示してふりかえるのは**、今回の単元や発達段階において有効だなと感じました。

☆自ら考え動く環境づくり

子どもたちが、水遊び用のおもちゃを作製するために、**材料や環境を自分で選択できる環境整備**の工夫がありました。材料を選ぶ場所、作製する場所、水を使って試す場所と**いうように、子どもたちが試行錯誤して活動ができるよう**授業者の環境づくりの大切さを実感しました。



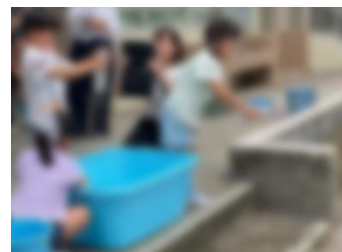
☆個の気づきが広がる

工作ラボでは、一人ひとりが没頭しておもちゃを作製する姿が見られました。一見個々がそれぞれ活動しており、友達との関わりは少ないように感じました。しかし、よく子どもたちの姿を見ていると、「そのキラキラどうやってつけたん」「むこうに風船あったで」「それはちょっと切ったらいいよ」など、**自分の気づきを友だちと共有したり、困り感を解決するために友だちに聞いたり、個の気づきや考えがちょっとずつ広がる場面**がいろいろなところで見られました。**活動の中で自然とうまれるつながり**を大事にしていきたいです!



☆小さな問い

今回の授業では、「もっと〇〇になるおもちゃにするにはどうしたらいいか」という大きな問いをもって活動する姿をめざしていました。その中で、「ちょっとずつ水を出すにはどうしたらいいかな」「このキラキラをはりたけいけどどうやってはろうかな」「水がもれてくるからとめるにはどうしたらいいかな」といった**その瞬間の小さな問い**が一人ひとりの中にたくさんうまれていたように思います。**豊富な材料、試す環境があるから**こそうまれた小さな問いだと感じました！



☆考えを表現する場

子どもたちが活動中に感じたことや考えたことを、どのように言語表現する場を設定するのかについて、討議会で協議しました。1年生という発達段階を考えると、自分の思いや考えを言葉で表現する場をどのように保障するかには難しさがあります。今回は、授業の終末に「グループ→全体」という流れで、数名が考えを発表する場を設定しました。一方で、討議会では「活動の途中で表現する場を設ける」「次時以降の授業で振り返る」など、さまざまな方法が提案されました。

その中で、幼稚園の先生から、「単元のゴールである年長児と一緒におもちゃで遊ぶ場面では、子どもたちがこれまで考えてきたことや工夫したことを自然と言葉にするのではないか」というご助言をいただきました。1学期という時期だからこそ、**子どもたちが「話したい」「伝えたい」と感じる場面を意図的に設定することで、無理なく言語表現を引き出すことができる**と感じました。

そのような自然な言語表現を大切に受け止めながら、**少しずつ振り返りの場面でペアや全体に伝え合ったり、言葉や文章で書いたりする活動へとつなげていく**など、子どもたちの発達段階に応じて段階的に育てていくことが重要であると考えています。

授業が終わり休み時間の教室をのぞきに行くと…。自分のおもちゃのすごいところを話したり、まだ作りたいと黙々と作業したり、子どもの「やりたい」があふれていました！今後の授業も楽しみです！

学期末のお忙しい中、
ありがとうございました！

